



【常葉中学校が44歳の誕生日を迎えます！】

今週の金曜日6月12日は常葉中学校の創立記念日です。常葉中学校の前身は、昭和35年(1960年)に開校した常葉台中学校です。当時は大津町にありました。今の根岸小学校の近くです。

その後、通学方法や学区に関わった立地条件による諸問題が生じ、当時の教育委員会や地域社会・学校関係者が奔走され、昭和51年(1976年)4月、ついにその積年の努力が実を結んで現在の

地に校舎が新設され、常葉中学校が開校しました。常葉中学校としては今年で44年を迎えることとなります。常葉台中学校から数えると60年の節目ということになります。現在の校章や校歌がどのような経過で制定されたのか調べてみましたので報告します。自分の学校に少しでも興味を持ってもらえればと思います。



常葉台の名を示す常葉の木の葉3枚に常葉の象徴たるペン3本を組み合わせ、中央に中学校の中の字を入れた。普通『常盤』と書くが、『常葉』は万葉集から引用した。

『 橘 は 実さへ 花さへ その葉さへ 枝に霜 降りどいや常葉の木 』

聖武天皇 卷六 番号1009
*枝に霜が降りるようになって、ますます栄える木である(常緑樹)

校章・この校章は、実は常葉台中学校のデザインをそのまま常葉中学校の校章に採用したものです。簡素な中にも、バランスの取れた含蓄のある修正の必要のないデザインということで採用されました。昭和35年当時の3年生がデザインしたものです。

校歌・当時の生徒・保護者・職員に呼びかけて公募し、応募作品の中から厳正に選出し、昭和52年2月に全生徒に発表されました。

【作詞】公募108点の中から選ばれた上位5点を、横須賀市教育委員会国語の指導主事の助言により、『内容・表現力・作曲しやすさ・定型詩であること・3番まであるか』などを考慮して決められました。当時PTA運営委員会の保護者の作品が選ばれ現在に至っています。

【作曲】歌詞同様に公募した結果、302点の作品が集まり、当時の音楽科教諭である小関富子先生の作品が選出されました。

普段はじっくり校章を眺めたり、歌詞の意味を考えたりすることはないと思いますが、コロナ禍が収束し、全校で校歌を歌える時が来たら、意識して校章を眺め、校歌をうたってください。愛着がわいてくるとと思います。常葉という字は万葉集から来ているんですね。

【教育課程の見直しを行っています。】

4月・5月の休校による授業日数の減少に伴い、年間計画や諸行事の内容など、1年間の教育課程の見直しを行っています。急なお知らせになりますが、学校が通常日課に戻る7月1日前後に、学年ごとの保護者集会を実施させていただく予定です。その折にも説明しますが、テスト時期や内容の変更、学年ごとの取り組み(職場体験や農園活動、ふれあい体験旅行など)、また体育祭の規模縮小などについても検討を重ねています。例年通りに実施・・・というわけにはいきません。生徒の安全・安心を第一に考えて検討しています。その節はご理解賜りますようお願いいたします。

教育目標
共に学び 共に喜び 共に誇れる
常葉中学校を築く

横須賀市立常葉中学校
〒238-0004 小川町1-8
☎825-7410